

ふじみ野市の将来像は…

10年後のふじみ野市はどうあるべきか、新しいまちづくりを進めるための「総合振興計画基本構想」の審議が、3日間にわたって行なわれました。賛成多数で可決。策定の目的を定めた第1章から最終章の第8章までの主な審議内容を紹介します。

第1章 策定の目的 第2章 まちのあゆみと概要

計画の位置づけについての質問に、「法律上の体系からいうと、市の憲法ともいえるもの」の答弁がありました。旧市町の歴史的背景や特色が正確に明記されているのか、あるいは基本構想に明記する必要があるのかなどの議論もありました。平成十八年に実施した市民意識調査（二十歳以

上男女三、〇〇〇人、回収率四一％）の結果、「医療体制の充実」の重要度が一位でしたが、一方で満足度も重要度も低い項目もあり、はたして市民の意向がつかめているのか、この結果をどのように計画策定に反映させたのかなど、議論がありました。

第3章 ふじみ野市の課題

- ①人口減少、少子高齢社会への対応
- ②環境への配慮
- ③人づくり・地域づくりの充実・強化
- ④高度情報化社会への対応
- ⑤安心・安全な地域の構築
- ⑥自立したまちへの転換

この六つの項目に対し、全国的にも共通した内容であり、これらの課題を選定した根拠について質疑があり、「全国的課題を踏まえた上で、市の地域特性の課題を考察した」と説明がありました。

また、言葉の使い方で、「市民・各種団体・事業者・行政が互いに信頼し（中略）『協働』によるまちづくりが必要」の部分で「『協働』は行政が責任放棄することにつながる」と指摘がある一方で、「『協働』という思いなくして、まちづくりは進まない」という意見もあり、他の章の項目の中でも、再三議論となりました。



活発な議論を展開 新しいまちづくりのための 基本構想策定

第4章 まちづくりの基本理念

第5章 ふじみ野市の将来像と10の視点

基本理念は、①協働と融和 ②安心と愛着 ③環境と活力の三つに分かれ、それぞれが二つの言葉でつながり、六つのキーワードが示されています。

将来像は「自信と誇り そして愛着のあるまち ふじみ野」とし、これを達成するために、今後十年間で進めるま

ちづくりの十の視点を掲げています。将来像については、「市民の市政への主体的なかわりで、自発的な市政への愛着が生まれる。メッセージが正確に伝わる工夫を」と賛同の意見と、「言葉はきれいだが、内心の自由を奪うもの。愛国心押しつけの郷土版」という意見も出されました。



第7章 将来人口12万人

第8章 土地利用構想



第6章 施策の大綱

将来像を実現するために市が行なう各種施策の指針として

- ①行財政運営
 - ②保健・福祉・医療
 - ③教育・文化・スポーツ
 - ④地域社会・市民生活
 - ⑤環境・産業
 - ⑥都市基盤・生活基盤
- 以上の六つの分野に分かれて、内容を掲げています。
- ①の行財政運営の分野

では、「スリムで効率的な協働のまちづくり」として、「地方分権時代にふさわしい『自己決定・自己責任』の原則に基づいて地域経済を行なう」と記されています。「スリムを最初に掲げたことに対し、『合併の効果を出すには当然』とする意見と、『行政は経営体ではない。住民自治と福祉の向上を第一にすべき』との意見に分かれました。

今後の開発を見据えての将来人口推計は「計画的に行なうこと。行政として、こういうサービスを進めるには、人口を何万人にした」という考え方を示すべきとの指摘がありました。

土地利用構想については、公共サービス・スポーツ・産業系土地利用促進・住宅系・商業系・工業系・農業系・環境共生生産・緑地の九つに色分けされた図が示されました。



と、緑の保全についての議論がなされました。